

第8章 スーパービジョン

オフィシャル強化のための
スーパービジョンの重要性を理解する

本章では、以下の項目を学習する：

- スーパービジョンとは何か
- スーパーバイザーの役割
- スーパービジョンへの肯定的反応
- スーパービジョン用紙
- スーパーバイザーとしての自主性

$\rho^{\text{eff}}(H_{\text{eff}})$

$\rho^{\text{eff}}(H_{\text{eff}})$

< 序文 >

試合中，ゲーム・オフィシャルを適切かつ効果的にスーパービジョンすることによって，国内連盟のオフィシャルのレベルを上げ，延いてはI I H F選手権のレベルを上げることができる。レフェリングの向上はホッケーの試合の質を高め，選手やチーム・オフィシャルとゲーム・オフィシャルとの対立を減らし，観客により面白い試合を見せることができるだけでなく，選手の安全性を高めることにもなる。質の向上および一貫性は，効果的なスーパービジョンによってもたらされるものである。

< スーパービジョンの目的 >

- 意義あるフィードバックをすることによって，オフィシャルの上達を支援する。
- レフェリングの質の向上。
- オフィシャルの評価を一貫させる。
- I I H Fオフィシャル強化プログラムおよびI I H Fキャリアパス強化プログラムを補う補足指導の提供。
- ルールの解釈と適用，ポジショニング，テクニク，手順およびシグナルの出し方などレフェリングの一貫性の強化。
- 誠実，率直かつ意義のあるフィードバックをし支援することによって，オフィシャル全員にそれぞれの可能性を極める機会を与える。
- 安全とフェアプレーの原則を一貫して徹底させることによって，試合およびI I H Fオフィシャル強化プログラムの清廉さを保護する。

< スーパービジョンを受ける際の心得 >

- オフィシャルは，建設的なコメントを受け入れる心構えができていなければならない。建設的なコメントには，対策が含まれていなければならない。問題点を明確にし，それらをいかに修正すべきかをオフィシャルに助言すべきである。
- オフィシャルはメモをとり，質問をすることが望ましい。
- オフィシャルは，スーパーバイザーが言っていることに注意を払うべきである。
- スーパーバイザーが他のオンアイス・オフィシャルと話をしている場合，その会話からも貴重な情報を得られるかもしれないので，注意して聞く（今日のラインズマンは明日のレフェリーである）。
- 改善が必要とされる分野について，言い訳をしない。
- 他のスーパーバイザーのアドバイスやフィードバックと比較をしたり，異議を唱えたりしない。こうした行為は非常に不愉快な状況を生み出す。

< スーパーバイザーへの期待 >

[原則]

レフェリー・スーパーバイザーはいかなるときも、レフェリーの判定に影響を及ぼしたりオフィシャルの判定やペナルティを変えさせたりしてはならない。レフェリーは、レフェリー・スーパーバイザーが判定やペナルティに関して何ら決定を下さないことを理解していなければならない。例えば、試合中の用具の計測はレフェリーの責任で行われるものであり、レフェリー・スーパーバイザーは一切関与してはならない。

レフェリー・スーパーバイザーは、試合中のスーパービジョンは講習会ではないことを忘れてはならない。すべての試合が規則に則って公平かつ一貫した方法で行われることを確実にするため、ゲーム・オフィシャルを支援することがレフェリー・スーパーバイザーの役割である。

[プロフェッショナリズム]

- スーパーバイザーは、プロフェッショナリズムや自信、経験、専門的知識を、態度で示さなければならない。
- オフィシャル、コーチ、リーグ運営者および観客は、スーパーバイザーに対して、何らかの問題が発生した場合にそれを静める力を持っていることを期待する。
- スーパーバイザーの服装や言動は、接する人々に多大なる影響を与える。

[役割]

- スーパーバイザーの役割で最も重大かつ難しいことは、オフィシャルの上達具合と仕事の出来栄えについて率直なフィードバックを与えることである。
- オフィシャルが上手くできている分野について前向きなフィードバックを与え続けることは容易であり気楽なことである。しかしながら、改善が必要な分野を指導し、オフィシャルがうれしく思わないような情報も提供できるスーパーバイザーが優れたスーパーバイザーだと言える。
- スーパーバイザーは、オフィシャルの仕事の出来栄えについて、肯定的・否定的面の両方に注意を向けなければならない。さもなければ、オフィシャルの全体的な強化を損なうことになる。

[チームワーク]

- オフィシャルは、スーパーバイザーは彼らを支援するためにおりチームの重要な一部であると教えられている。

- スーパーバイザーは、オフィシャルの多くはスーパーバイザーの存在を快く思っていないことを認識していなければならない。スーパーバイザーは、オフィシャルとの協力関係を徐々に浸透させ強化するため、オフィシャルに対して、またスーパービジョンの過程において、努力しなければならない。
- オフィシャルを指導し支援するためにスーパーバイザーがいるということを、できる限り実践すること。スーパーバイザーは、何をすべきか、またオフィシャルを支援するためにどのような助言をすべきかを心得ていなければならない。

〔状況把握〕

- スーパーバイザーの全体的な成功は、状況を把握する能力に左右されることが多い。効果的であるためには、スーパーバイザーは常に「全体図」を把握していなければならない。この役割を担うのは、リンクの中でスーパーバイザー一人である。
- スーパーバイザーは、様々な状況や条件、環境において人を観察しなければならない。スーパーバイザーは、更衣室のオフィシャル、ロビーや客席のファン、氷上の選手の雰囲気を見極めなければならない。また、コーチ、選手、スコアボード、オフィシャルを良く見なければならない。
- オフィシャルは、これらの分野の多くを見て、できる限り試合をコントロールしようとする。スーパーバイザーはすべてのことを的確に見極め、オフィシャルに指示を出すことができなければならない。また、注意力を持ち、スーパーバイザーとしての心構えができていなければならない。

〔関わり方〕

- 正当な理由でスーパービジョンに携わることが重要である。金銭的な利益のためと考える者もいれば、レフェリーとしての出世のために必要と考える者もいる。このような理由でスーパーバイザーをしているとしたら、考え直した方が良いでしょう。
- 積極的なオフィシャルは、他人の仕事を見て学ぶことができる。スーパービジョンする人々のためにすべてをつぎ込まなければ、多くの変化は望めない。

〔時間〕

- スーパービジョンを通じてオフィシャルを支援することは非常に重要であり、定期的にリンクにスーパーバイザーを置くことが望ましい。一人一人が週1回リンクに出かけ、1日2試合をスーパーバイズすることができれば、大きな成果があるであろう。これが難しい者もいれば、これ以上できる者もいるかもしれない。

〔トレーニング〕

- 有能なスーパーバイザーは、現行の競技規則や技術的ガイドライン、ルールの注意点、ゲーム・マネジメントの基本に精通していなければならない。スーパーバイザーは、国内連盟主催のレフェリー・クリニックやスーパーバイザーの会議に出席することが望ましい。

スーパービジョンにおいて、仲間はすばらしい情報源である。助言やフィードバック、サポートを躊躇せず依頼すること。

〔サポート〕

- スーパーバイザーのサポートは、国内連盟およびそのオフィシャル強化プログラムにおいて重要なものである。スーパーバイザーが費やす時間と労力に、多くの人が心から感謝している。スーパーバイザーには楽しく仕事に取り組んでほしい。
- 国内連盟のレフェリー委員長に連絡し、スーパービジョンに関する質問の窓口となる担当者のリストを入手しておくが良い。

〔試合のスーパービジョン〕

- 試合のスーパービジョンでは、スーパーバイザーが試合後直ちにオフィシャルにフィードバックと評価を与えることが必要とされる。オフィシャルがあらゆる分野を反映し改善できるよう、スーパーバイザーは試合について口頭でフィードバックするとともに、書面による評価も与えなければならない。
- スーパーバイザーは、キャリアパス制度を継続させ適切な強化ができるよう、評価表のコピーを国内連盟事務局に提出しなければならない。
- スーパーバイザーには、スーパービジョン・プログラムの基礎となる一定のガイドラインと手順がある。
- スーパーバイザーは、この情報を一貫して適用することにより国内連盟オフィシャル強化プログラムおよびスーパービジョン関係者全員の清廉さを保護しなければならない。

- スーパーバイザーはチームの一員である。スーパーバイザーは試合前に更衣室でゲーム・オフィシャルと接することを期待されている。スーパーバイザーはオフィシャル同士の雰囲気と和ませるため、オフィシャルをお互いに紹介するべきである。
- スーパーバイザーはルール解釈に関する新たな通知書に目を通し、試合前にルールやその解釈に関する質問に答えるものとする。
- 更衣室では、スーパーバイザーは会話と雰囲気とに注意を払わなければならない。オフィシャルは仕事に対して精神的な用意ができていだろうか。助言やサポートをするためにピリオドの合間に来ることをオフィシャルに告げること。試合に先立ち、各オフィシャルと握手し激励すること。
- スーパーバイザーは、オフィシャルの更衣室への「ノー・ビジター（部外者立入禁止）ルール」を尊重すること。特別な理由のあるスコアキーパーを除き、入室を許されるのはオフィシャルとスーパーバイザーのみである。このルールを順守するのはオフィシャルの責任である。これが守られていない場合、スーパーバイザーはこの問題を書き留め試合後に対処しなければならない。
- スーパーバイザーは、リンク全体を見通せる落ち着いた場所を選ばなければならない。スーパーバイザーは、専門的なサポートをしオフィシャルを指導するためにいるのである。
- 熟練したスーパーバイザーは、一つの試合で3人のオフィシャルをスーパーバイズすることができる。レフェリーに重点を置いたとしても、スーパービジョン用紙を記入し助言できる程度にラインズマンを見ることはできるはずである。
- 試合終了後、スーパーバイザーは下記の事項を確認する：
 - ⇒ すべての要因を考慮し、オフィシャルは良い仕事できたか。
 - ⇒ 難しい試合だったか、平均的な試合だったか。オフィシャルは積極的に貢献していたか。
 - ⇒ 試合は安全で公平だったか。
 - ⇒ オフィシャルは技術面・手順面のガイドラインに従っていたか。
 - ⇒ オフィシャルは勇気を示していたか。
 - ⇒ オフィシャルはカテゴリーに応じたゲーム・マネジメントをしていたか。
 - ⇒ オフィシャルは試合を読み、反応していたか。

- 試合後、スーパーバイザーは更衣室に入り、各オフィシャルの努力を称えてからフィードバックを始める。
- フィードバックは、チームとしてオフィシャルに与えられるものであり、全員がそれぞれのフィードバックを聞くべきである。スーパーバイザーが一人のオフィシャルに具体的な話をしているときは、他のオフィシャルは個人的な意見や所見を挟まず、注意して聞いていなければならない。
- フィードバックを与える際の主な目的の一つは、スーパーバイザーが言っていることをオフィシャルに聞かせ理解させることである。スーパーバイザーが、いくつかの改善点を除きオフィシャルの出来が良かったと感じた場合は、スーパーバイザーはオフィシャルがこれを理解していることを確信しなければならない。直ちに改善しなければならない分野がある場合、スーパーバイザーはそれを明確にし、オフィシャルが理解していることを確認しなければならない。
- オフィシャルに要改善点を伝える場合、スーパーバイザーは対策と秘訣を与えなければならない。有能なスーパービジョンとは、前向きな強化と指示のことをいう。
- 状況によって、スーパーバイザーはオフィシャルと個々に話をすることができる。この方法はあくまでも選択肢の一つであり、スーパーバイザーの判断で用いられるものとする。
- スーパーバイザーとして、自分はすべてのことに答えられると思ってはならない。ルールや手順について知らないことがあれば、調べる。はったりでオフィシャルを騙してはならない。自分の専門的知識に自信がなければ、専門的なフィードバックはしてはならない。

< 用紙 >

- スーパービジョンの用紙はオフィシャルおよびプログラムの双方にとって重要な資料である。オフィシャルは自分自身の進歩の度合いを測るため、随時それらを参照するべきである。国内連盟オフィシャル強化プログラムは、各オフィシャルの進歩を把握し、他のオフィシャルの技術と比較し、スーパーバイザーの貢献度を評価し、プログラム全体の成功を報告するため、これらの用紙を使用する。
- スーパーバイザーはすべての用紙に、読みやすい字で詳しく記入しなければならない。
- 試合をスーパーバイズする際、そのレベルの試合でそれまでに見た最高のオフィシャルとその試合のレフェリー・ラインズマンを比較するべきである。ここが出発点である。どのカテゴリーにおいても同様である。

< 試合中 >

【試合中のスーパービジョン】

- 試合中、レフェリー・スーパーバイザーは「試合中」のメモ用紙（8-13ページ参照）と同様の用紙に大まかなメモをとり、口頭のフィードバックと書面による評価表に備えるものとする。所定の欄に、レフェリーおよび二人のラインズマンについてのメモをとる。
- 各ピリオド終了後、スーパーバイザーはこのメモを基に評価表を書き上げることが非常に重要である。ピリオド終了後、スーパーバイザーはメモした内容を評価表（8-17ページ，8-19ページ参照）に書き写す。この評価表は、オフィシャル本人に渡され、国内連盟事務局にも提出される。
- レフェリー・スーパーバイザーはこのメモ用紙を国内連盟に提出しないが、各オフィシャルの評価の参考にするため、シーズン終了まで保存しておくことが望ましい。
- 経験を積むに従い、スーパーバイザーは「試合中」のメモ用紙の形式を、自身の使いやすいうように変えても良い。

【レフェリーによるペナルティの選択】

- 試合中、レフェリー・スーパーバイザーは「レフェリーによるペナルティの選択」用紙（8-15ページ参照）を記入し、ゲームレポートの資料とする。
- この用紙の目的は、レフェリーが試合中に科した反則および科さなかった反則についてレフェリー・スーパーバイザーとレフェリーが協議できるようにすることである。この用紙は、試合全体を見直す際にも有益な資料となる。
- レフェリー・スーパーバイザーは、試合後にチーム・オフィシャルとの協議が必要になった場合にも、この用紙を使うことができる。

- 科されたペナルティ – この部分には、試合中にレフェリーが科したすべてのペナルティを記入する。下記の情報が必要とされる：
 - ⇒ 時 間 – ペナルティが科せられた時間
 - ⇒ H / V – Hはホームチームを、Vはビジターチームを意味する
 - ⇒ No. – 選手の背番号
 - ⇒ コー ド – 用紙裏面のペナルティ・コードを記入する
 - ⇒ 判 定 – 自身の見解で判断し、用紙裏面の評価基準に基づき記入する
 - ⇒ コメント – 必要と思われるコメントがあれば記入する
- ペナルティを科されなかった反則 – この部分には、試合中に科されなかった反則をすべて記載する。下記の情報が必要とされる：
 - ⇒ 時 間 – ペナルティの科せられなかった反則が起きた時間
 - ⇒ H / V – Hはホームチームを、Vはビジターチームを意味する
 - ⇒ No. – 選手の背番号
 - ⇒ コー ド – 用紙裏面のペナルティ・コードを記入する
 - ⇒ 理 由 – なぜペナルティが科されなかったのか自身の見解で判断し、用紙裏面の評価基準に基づき記入する。
 - ⇒ コメント – 必要と思われるコメントがあれば記入する

< 試合後 >

[口頭でのフィードバック]

- スーパーバイザーの口頭によるフィードバックと書面によるフィードバックが一貫していることが重要である。
- スーパーバイザーは試合後、レフェリーとともに席につき、口頭でフィードバックを与える。「レフェリーによるペナルティの選択」用紙（8－15ページ参照）を参照し、レフェリーと協議する。

○オフィシャルへのフィードバックのには、下記の事項が含まれていなければならない：

- ⇒ペナルティ
- ⇒オフサイド，アイシング，フェイスオフ
- ⇒一貫性
- ⇒試合中の重大な局面
- ⇒チームおよび選手個々とのコミュニケーション

[レフェリーの評価]

○スーパーバイザーは、レフェリー評価表（８－１７ページ参照）を作成する。これは、将来的にそのレフェリーの技術を向上させるために有益な情報を提供するものである。レフェリー評価表は国内連盟事務局にも送付され、管理者が継続的にオフィシャルのキャリアパスを評価するために使われる。

○評価の基準とカテゴリーおよび定義は、レフェリー評価表裏面に記載されている（８－１８ページ参照）。全体的な評点を決める際、下記の割合を考慮すること：

- | | |
|------------------|-----|
| ⇒容姿とコンディション | ５％ |
| ⇒シグナル | ５％ |
| ⇒エンドゾーンでのポジショニング | １０％ |
| ⇒ゲーム・マネジメント | ４０％ |
| ⇒存在感と態度 | １０％ |
| ⇒注意力 | １０％ |
| ⇒コミュニケーション | １０％ |
| ⇒チームワーク | １０％ |

[ラインズマンの評価]

○スーパーバイザーは、ラインズマン評価表（８－１９ページ参照）を作成する。これは、将来的にそのラインズマンの技術を向上させるために有益な情報を提供するものである。ラインズマン評価表は国内連盟事務局にも送付され、管理者が継続的にオフィシャルのキャリアパスを評価するために使われる。

○評価の基準とカテゴリーおよび定義は、ラインズマン評価表裏面に記載されている（8－20ページ参照）。全体的な評点を決める際、下記の割合を考慮すること：

⇒容姿とコンディション	5 %
⇒シグナル	5 %
⇒ポジショニング	10 %
⇒ゲーム・マネジメント	40 %
⇒存在感と態度	10 %
⇒注意力	10 %
⇒コミュニケーション	5 %
⇒チームワーク	5 %
⇒フェイスオフ	10 %

スーパーバイザーは、このシステムを使い、同じレベルのオフィシャルと比較しながら、オフィシャルの技術向上のレベルを把握することができる。オフィシャルの強化およびコーチ、選手、観客および他のオフィシャルにとって、試合のレベルに適した能力のオフィシャルが割り当てられていることが重要である。

< ま と め >

スーパーバイザーは、ゲーム・オフィシャルのチームの一員である。審判技術の向上は、スーパービジョンの質やスーパーバイズされるオフィシャルの態度と直結している。

予備ページ

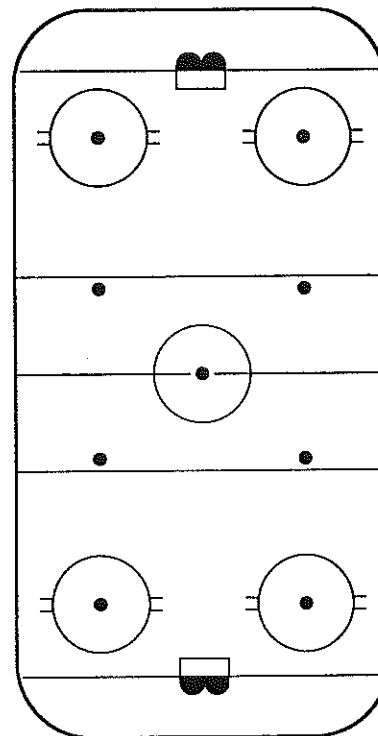
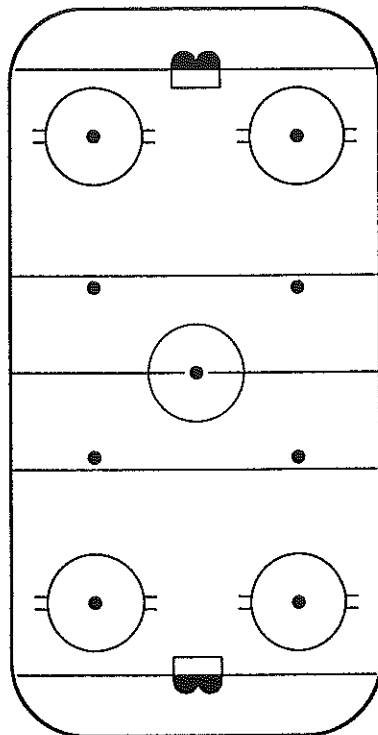


日本アイスホッケー連盟
レフェリー・スーパーバイザー用「試合中」のメモ用紙

試合： _____ 場所： _____ 結果： _____ 月日： _____

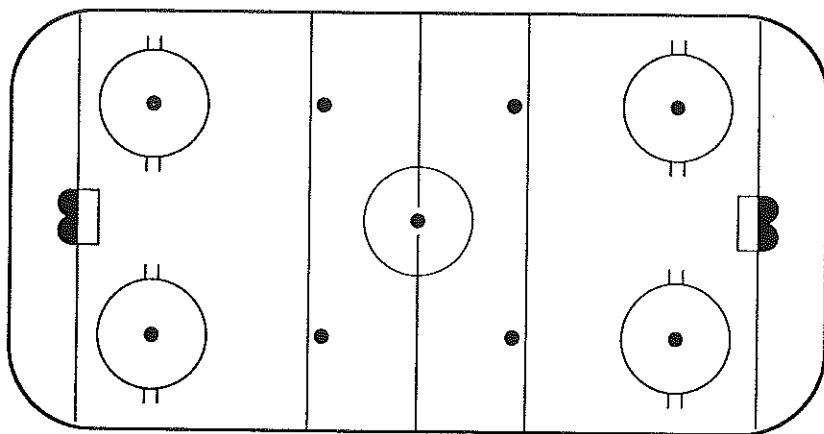
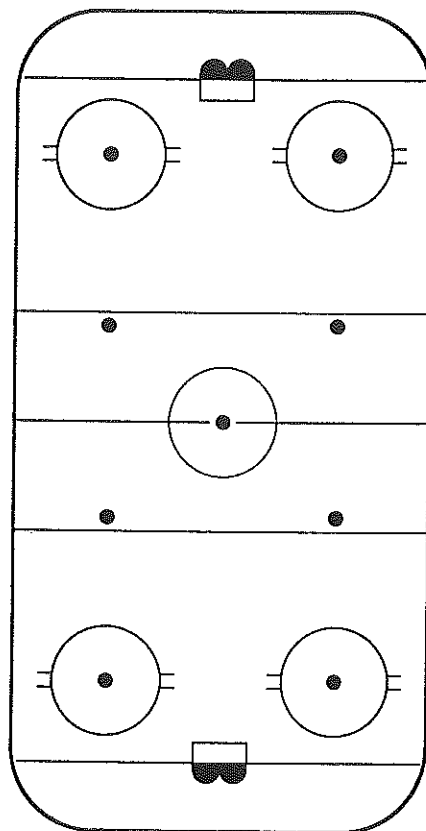
レフェリー： _____

ラインズマン： _____



ラインズマン： _____

コメント： _____





＜ペナルティーを課されなかった反則＞

[illegible]

1. 評価

良い：3 普通：2・1 悪い（不要なペナルティー）：0

2. 理由

- 1 : 見ていたが課さなかった
2 : ポジションの範囲外だった
3 : プレーを追っていた
4 : 選手に視界を遮られた
5 : 背後で起こった
6 : ポジションは良かったが見えなかった
7 : バックキャリアに集中していた
8 : 背後にいる選手に集中していた
9 : その他 ()

3. ペナルティー・コード

- | | | | |
|-----------|----------------------|-----------|-------------------|
| 1: ABUSE | オフィシャルに対する冒涇 | 16: HOLD | ホールディング |
| 2: BD-CK | ボディ・チェックング | 17: HOOK | フッキング |
| 3: BENCH | ベンチ・マイナー | 18: HO-ST | ホールディング・ザ・スティック |
| 4: BOARD | ボーディング | 19: IL-EQ | 不正な用具 |
| 5: BUTT | バットエンディング | 20: INTRF | インターフェアランス |
| 6: CHARG | チャージング | 21: KNEE | ニーイング |
| 7: CHE-B | チェックング・フロム・
ビハインド | 22: MATCH | マッチ・ペナルティ |
| 8: CROSS | クロス・チェックング | 23: MISC | ミスコンダクト・ペナルティ |
| 9: DELAY | 競技遅延 | 24: OTHER | その他の反則 |
| 10: DIS-N | 故意にゴールを動かす行為 | 25: PEN-S | ペナルティ・ショット |
| 11: ELBOW | エルボーイング | 26: ROUGH | ラフティング |
| 12: FIST | フィスティカフス | 27: SLASH | スラッシング |
| 13: GA-MI | ゲーム・ミスコンダクト | 28: SPEAR | スピアリング |
| 14: GR-MI | グロス・ミスコンダクト | 29: TOO-M | トゥー・メニー・メンバー |
| 15: HI-ST | ハイスティッキング | 30: TRIP | トリッピング |
| | | 31: UN-SP | アンスポーツマンライク・コンダクト |



日本アイスホッケー連盟 レフェリー評価表

大会名：_____ レフェリー：_____ 月日：_____

ホームチーム：_____ ビジターチーム：_____ 試合番号：_____

得点：(-) (-) (-) (-) 結果：(-)

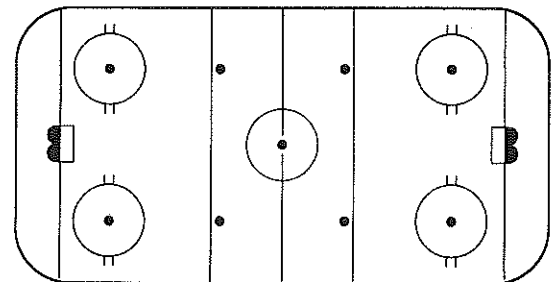
ペナルティ：(-) (-) (-) (-) 合計：(-)

ペナルティ	マイナー	メジャー	ミスコダ外	ゲームミスコダ外	クロスミスコダ外	マッチペナルティ	ペナルティショット
ホーム							
ビジター							

ペナルティの 評 点	チーム	3	2	1	0	見逃した ペナルティ/ 悪いコール	1 回	2 回	3 回	延長	総合点
ホーム							/	/	/	/	
ビジター							/	/	/	/	

O = 大変良い G = 良い S = 普通 W = 悪い

評価項目	O	G	S	W	一貫性	O	G	S	W
容姿とコンディション					第1 回				
シグナル					第2 回				
ポジショニング—エンドゾーン					第3 回				
ポジショニング—試合の追い方					延長 回				
ゲーム・マネジメント									
存在感と態度									
注意力									
コミュニケーション									
チームワーク									



試合のレベル： 難しい () 普通 ()

長所：_____

要改善点：_____

スーパーバイザー：_____

オフィシャルの評価 — 採点方法

採 点	難 し い	普 通
非常に良い	90 - 95	85 - 89
良 い	85 - 89	80 - 84
普 通	80 - 84	75 - 79
悪 い	70 - 79	60 - 69

1. 容姿と健康状態 (R/L)

- ・氷上／リンク外での服装
- ・体調
- ・ボディーランゲージ
- ・スケーティング技術
- ・精神状態
- ・熱意

2. シグナル (R/L)

- ・シグナルの手順の正確性
- ・自信を示す
- ・シグナルの課し方の正確性

3. エンドゾーン (R)

- ・プレーの進路から出る
- ・ネットに近づく
- ・視野の分割／選手を前方に見る
- ・コーナーから離れる
- ・予測／読みと反応
- ・ネットの後ろ側に極力立たない
- ・フェイスオフの手順
- ・中断時のポジション

4. ポジショニング・プレーの追いかた (R)

- ・プレーとの距離の正確性
- ・読みと反応
- ・ボードからの距離
- ・ニュートラルゾーンでの中断時のプレー
- ・ラインズマンの視界のブロック
- ・プレーの方向へのターン
- ・背後のプレーのチェック
- ・視野の分割／ヘッドアップ

5. ゲームマネジメント (R)

- ・判断
 - ーペナルティの選択
 - ールールの適用
 - ールールの知識／解釈
- ・ゲームコントロール
 - ー試合勘
 - ー重要な場面での反応
- ・一貫性
 - ー基準を保つ
- ・決断力
 - ー躊躇しない

6. 存在感と態度 (R/L)

- ・プレッシャー下での反応
- ・選手／コーチとの相互信頼
- ・ゲームオフィシャルらしい言動
- ・威厳を示す

7. 注意力 (R/L)

- ・すべての状況や条件に注意を払う
- ・視野を最大限にする
- ・難しい場面を予想する

8. コミュニケーション (R/L)

- ・氷上オフィシャル／競技役員全員とのコミュニケーション
- ・コーチ／選手との試合中のコミュニケーション
- ・スーパーバイザーとの協力
- ・受け入れる姿勢
- ・人間関係

9. チームワーク (R/L)

- ・氷上オフィシャル／競技役員全員との協力
- ・パートナーの決定と行動を支持する
- ・試合中の氷上オフィシャルの任務と責任



日本アイスホッケー連盟 ラインズマン評価表

大会名：_____ ラインズマン：_____ 月日：_____

ホームチーム：_____ ビジターチーム：_____ 試合番号：_____

得点：(-) (-) (-) (-) 結果：(-)

ペナルティ：(-) (-) (-) (-) 合計：(-)

O = 大変良い G = 良い S = 普通 W = 悪い

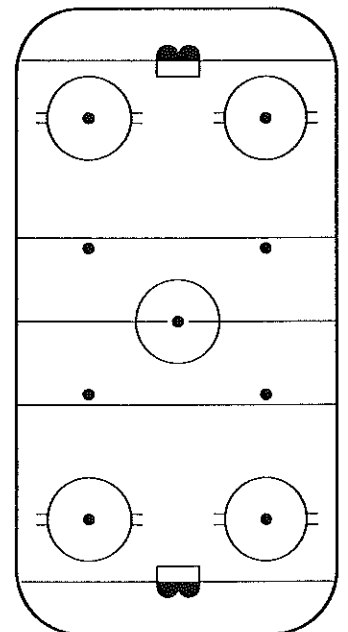
評価項目	O	G	S	W	一貫性	O	G	S	W
容姿とコンディション					アイシング				
シグナル					ディレイド・オブサイド				
ポジショニング					フェイスオフ				
ゲーム・マネジメント					プレイヤー・コントロール				
存在感と態度					見逃した／悪い オフサイド	／			
注意力					見逃した／悪い アイシング	／			
コミュニケーション					総合点				
チームワーク									
フェイスオフ									

試合のレベル： 難しい () 普通 ()

長所：_____

要改善点：_____

スーパーバイザー：_____



オフィシャルの評価 — 採点方法

採 点	難 し い	普 通
非常に良い	90 - 95	85 - 89
良 い	85 - 89	80 - 84
普 通	80 - 84	75 - 79
悪 い	70 - 79	60 - 69

評価表 — 評価項目と定義

1. 容姿と健康状態 (R/L)

- ・氷上／リンク外での服装
- ・体調
- ・ボディーランゲージ
- ・スケーティング技術
- ・精神状態
- ・熱意

2. シグナル (R/L)

- ・シグナルの手順の正確性
- ・自信を示す
- ・シグナルの科し方の正確性

3. ポジショニング (L)

- ・ラインおよびフェイスオフスポットでの適切なポジショニング
- ・プレー進行中の適切なポジショニング
- ・プレー中断時の適切なポジショニング
- ・レフェリー&パートナーのカバー
- ・ブルーラインでのチェンジの技術

4. ゲームマネジメント (L)

- ・判断
 - －アイシング／オフサイド
 - －ルールの適用
 - －ルールの知識／解釈 (R)
- ・ゲームコントロール
 - －試合勘
 - －重要な場面での反応
 - －オフサイド／アイシングの間
- ・一貫性
 - －基準を保つ
 - －オフサイド／アイシングのコール
- ・決断力
 - －躊躇しない／正しいコールの表現

5. 存在感と態度 (R/L)

- ・プレッシャー下での反応
- ・選手／コーチとの相互信頼
- ・ゲームオフィシャルらしい言動
- ・威厳を示す

6. 注意力 (R/L)

- ・すべての状況や条件に注意を払う
- ・視野を最大限にする
- ・難しい場面を予想する

7. コミュニケーション (R/L)

- ・氷上オフィシャル／競技役員全員とのコミュニケーション
- ・コーチ／選手との試合中のコミュニケーション
- ・スーパーバイザーとの協力
- ・受け入れる姿勢
- ・人間関係

8. チームワーク (R/L)

- ・氷上オフィシャル／競技役員全員との協力
- ・パートナーの決定と行動を支持する
- ・試合中の氷上オフィシャルの任務と責任

9. フェイスオフ (L)

- ・適切な手順で正しく行われているか
- ・選手のコントロール
- ・フェイスオフサークルの外の動き
- ・パックを落とす技術とタイミング